

第 37 回全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会 (R3.11.19) オンライン

標記総会と安全研修会に参加しました。今回は当番校沖縄科学技術大学院大学によるオンラインで開催されました。資料は中川が保存しています。ご覧になりたい方は中川までお知らせ下さい。

9:30～12:00 総会

13:00～16:00 安全研修会

「遺伝子組換え生物と病原体の総合的な安全管理を目指して」

<第 37 回 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会 総会>

1) 新規会員等の参加承認

正会員：独立行政法人 酒類総合研究所

十文字学園女子大学

企業会員：日本新薬株式会社

暫定会員：酪農学園大学

一般社団法人バイオリジクス研究トレーニングセンター

2) 文部科学省施策説明

(1)カルタヘナ法について

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室専門職

田崎 美央

表の改正について、「科学的知見により」という文言追加画行われているが、論文や過去の実績に基づいて共通認識ができているものとの説明があった。

ゲノム編集について、核酸移入のあるなし、核酸残存のあるなし、で適切な対応を行うことが説明された。核酸移入なしや核酸残存なしの場合は事前打ち合わせの後に主務官庁に届出連絡し、情報提供を行うことが説明された。

その他、組換え DNA や関連実験について不明な点や判断に迷う点があれば文部科学省ライフサイエンス課に問い合わせをしていただくのが望ましいと思われる。

(2) 学術研究に関する政策の動向について

文部科学省研究振興局大学基盤整備課 研究設備係長・研究支援係長
中村 卓

大学研究力強化委員会設置が報告され、大学ファンド、地域の中核となる大学の機能強化、若手研究者の活躍促進について説明が行われた。

3) 事業報告

(1) クラウド方会員管理・会計管理システムの導入

古関 直子 (東京農工大学 事務局)

(2) 第13回 遺伝子組換え実験安全研修会

西内 巧 (金沢大学 副代表幹事)

参加記で報告しました。

4) 委員会等報告

(1) 幹事会

(2) 広報委員会

(3) 組換え生物等委員会

(4) 教育教材ワーキンググループ

「遺伝子組換え生物等の使用等に関する問題集」公開、英語版動画の公開予定 (令和4年度公開予定) が報告された。

(5) Gene Drive ワーキンググループ

(6) 続・ゲノム編集ワーキンググループ

(7) 組換えカビ・キノコ・コケ等の拡散防止措置ワーキンググループ

(8) 実施計画書書式・審査検討ワーキンググループ

(9) 将来構想ワーキンググループ

会の名称変更、会則変更などを議論し提案

5) 会則の変更について

遺伝子組換え実験安全管理に重点を置く会へとシフトするため、会の名称、会員種別、役員、総会の形態を変更することが提案され承認された。

名称は「遺伝子研究安全管理協議会」、略称「遺伝子協」、英語名称「Association for Promotion of Genetic Studies in Japan (APGS)」となった。2022年4月1日

より発足。

6) 委員会について

新しい「遺伝子協」では、以下の委員会と新たに分科会を置くことになった。

委員会

- ・ 組換え生物等委員会 各種組換え生物部会（細菌部会、ウイルス部会、菌類部会、動物部会、植物部会、第一種使用部会）を設置
- ・ 審査手続き等件等委員会
- ・ 教育教材開発委員会
- ・ 将来構想委員会

分科会

- ・ 共同利用機器分科会

7) 決算報告

8) 事業計画、予算案

9) 中間報告の廃止（中間決算報告の廃止）

10) その他の議事

次回の総会と安全研修会は、は 2022 年 11 月 18 日（金）に千里ライフサイエンスセンターで開催の予定です。

<安全研修会>

遺伝子組換え生物と病原体の総合的な安全管理を目指して

- ・ 「感染症法について」

前川 秀彰（BMSA）

- ・ 「実験室バイオセーフティ：バイオリスクマネジメント」

杉山 和良（国立感染症研究所名誉所員）

- ・ 「生物学用安全キャビネットの構造・機能」

小野 恵一（株式会社日立産機システム）

- ・ 「遺伝子組換えキノコ類の拡散防止措置」

鈴木 智大（宇都宮大学）

- ・ 「遺伝子組換え実験の管理と委員会運営について」

西内 巧 (金沢大学)

・「OISTにおけるバイオセーフティへの取り組み」

田中俊憲 (OIST)

(中川)